

Title	センター長就任にあたって
Author(s)	白川, 功
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1998, 108, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66263
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

センター長就任にあたって

白川 功

本年4月より、宮原秀夫先生の後を受け、センター長を仰せつかることになりました。本センターは昭和44年4月に全国共同利用施設として設立されて以来今日まで、歴代センター長をはじめ学内外の関係各位のご尽力のお陰によりまして順調に発展し、来年4月には創立30周年を迎えることとなりました。私も微力ではありますが、センターの更なる発展に寄与すべく、全力投球で頑張っていく所存であります。

本センターが提供する各種の計算資源に関しましては、近年のオープンシステムへの流れをくんで昨年1月にサービスを開始したスーパーコンピュータ、本年度より本格稼働する並列演算サーバに採用したUNIXベースのオペレーティングシステムなどに見られますように、センターの全スタッフのご尽力で、大変革がはかられてきました。さらには、ユーザの多様な要求に答えるべく、画像処理システムやマルチメディア編集システムなども提供できるようになっております。

これらの計算資源を有機的に接続する、世界でも例を見ない巨大超高速キャンパスネットワークシステムODINSも、平成6年に構築して以来順調に質的量的伸展を遂げ、実際の運用を通じて培われた貴重な経験と知見に基づいて、365日24時間運転が実現され、常に安定したネットワーク環境が提供できるようになり、まさに円熟期に入ったといっても過言ではないと思います。

このような計算・ネットワーク資源が十分に整った環境下で、ご利用頂いているユーザの方々に、如何にして充実した情報コンテンツを提供して行くか、が現在私どもが抱える大きな課題となっております。すなわち、WWWベースで検索が可能なデータベースシステムの構築あるいはその開発環境の整備、遠隔講習会システムの導入など、サービスの多様化と高品質化を如何にしてはかるかが、私どもが解決すべき重要課題となっているのであります。加えて、図書館の電子化および情報処理教育の拡充をも含めた本学全体の統合的な情報化を目指して、付属図書館および情報処理教育センターとより一層密接に連携し、「共働」で高度情報化を推進することが肝要であると考えております。多数のユーザの方々に多様な利用形態と利便性のある機能を提供することを基本として、本センターは来るべき21世紀に向けた総合情報センター的な役割を担うべきであると考えております。本センターが抱えている懸案事項は決して少なくはありませんが、その実りあるソリューションを模索し、センター機能の更なる変革のために全力で努力致す所存であります。今後とも、ユーザの方々をはじめ関係各位の一層のご理解とご支援をお願い申し上げる次第です。